

**2021年度 外国人留学生・渡日生(外国人生徒)特別選抜 小論文
出題の意図と解答の傾向**

【出題の意図】

アレックス・カー、清野由美『観光亡国論』(中公新書、2019)からの出題である。本学に入学する前に、日本語能力を高めるだけでなく、経済学を学ぶ際に必要となる力もつけておいてほしいと考え、この文章を入学試験の問題として採用するに至った。

設問にあたっては、これから本学の経済学部で学ぶのに必要とされる日本語能力、文章読解能力、文章表現能力、洞察力、分析力、論理的思考力を測ることに重点を置いた。

設問1では、経済学部で学ぼうとする受験者には読めることが期待される漢字を取り上げた。設問2では、経済学部で学ぼうとする受験者には知っておいてほしいカタカナ語を取り上げ、その意味を理解し、日本語で説明する力があるかを測った。設問3では、データを正しく読み取り、表現する力を測った。設問4では、読解力と理解した内容を再構成する力を測った。設問5、設問6では、本学の経済学部で学ぶ際に必要となる洞察力、分析力が備わっているか、論理的に文章が書けるかを問うこととした。

【解答の傾向】

<設問1>

正答は、「①くわ(えて)、②せいぞうぎょう、③おうべいせんしんこく、④しょうひがく、⑤そううりあげだか」である。

②、③、⑤の正答率が低かった。大部分が濁音や長音に関する誤答であった。語彙の学習の際には留意してほしい。

<設問2>

「(a)物事の仕組みや考え方が大きく変わること、(b)訪日外国人旅行、(c)出生数が一時的に大きく増えること」といったような解答が正しい日本語で書けていれば正解とした。

(a)、(b)の正答率が低かった。これらの語を知らない場合、解答が困難な問題である。日頃から日本語の経済用語にも関心を持ってほしい。

<設問3>

原本では、[ア]は「変化がありません」、[イ]は「減っている」、[ウ]は「2000万」となっている。同意の解答が正しい日本語で書けていれば正解とした。

[ウ]の正答率は高かった。[ア]、[イ]では、図表は読み取れていると思われるものの、空欄の前後に合わせた正しい日本語で表現できていない解答が多く見られた。学んだ語彙や文法の知識を細部にまで活かしてほしい。

<設問4>

「(重厚長大型の) 製造業が中心となっている状態」といったような意の解答を期待した。大半の解答が本文の内容は理解できていると思われるものであったが、日本語での表現が適切ではなく、伝わりにくい解答も少なからず見られた。特に、助詞や活用形は正確に使えるようになっておいてほしい。

<設問5>

本文の中には直接的に「要因」を説明している部分が少ないため、自分の知識や言葉で補完して解答する必要がある。「人口減少・空き家問題の複雑に絡み合う要因」の説明を求めたが、「人口減少」についてのみ述べた解答や「人口減少」と「空き家問題」の要因について個別に述べただけの解答が多く見られ、「複雑に絡み合う」といったところまで考えが及んでいる解答は殆ど見られなかった。

<設問6>

本文の内容を踏まえた上で、オリジナリティーのある意見が述べられることを期待した。自分の持てる知識を活用し、自分の考えを明らかにしなければならない問題である。

高い評価ができなかった解答としては、観光産業について書いてあるものの人口動向や経済状況に触れていない解答、自国の実態だけを述べた解答、受験対策として書いたことがあると思われる類似したテーマにとらわれ、論点が逸れてしまった解答等があった。農村部で観光産業を育成すべきだとした解答が多かったが、その中でも、具体的にどのようにして育成するのかまで論じている解答や観光産業全体を発展させる方法について述べているような解答は高く評価した。内容に加え、文章の構成や日本語の表現にも着目して採点を行った。論理的に展開できている解答とそうでない解答の差が大きかった。日本語での表現に関しては、漢字の間違いや大学生になるにあたって書けてほしい漢字の平仮名表記が目立った。字数が極端に少ないものは減点の対象とした。

社会に関する知識、洞察力、分析力が求められる問題であり、日本語の学習を単なる言語の学習と捉えてやっていただけではなかなか解けない問題である。日々の生活の中で、様々なことに興味を持ち、自ら考える力を養うことが望まれる。